

## 1 現状

### ◆研究所の概要（H元設立）

- ・海洋深層水の産業・学術・教育利用のための研究開発拠点（機能解明、用途開発、高付加価値化に関する研究）
- ・利用企業の安定生産に向けたサービス提供拠点（飲料水・塩類・化粧品等の原料として深層水を供給）
- ・地元（+国内外）の関連産業の技術的支援拠点（関連産業への技術支援）

### ◆設備の現状

- ・国内15カ所の取水設備のうち、本県設備が最年長（1号取水管:H元～、2号取水管:H6～）
- ・深海から取水するため、設備が海岸線に立地  
→H30の台風20号では、風雨と越波により研究所棟及び実験棟に大きな被害

▶【参考】本県の深層水関連商品販売額（単位:億円）

	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
食品	96	100	97	98	102	74	71	67
非食品	5	4	4	4	5	13	11	7
<b>合計</b>	<b>101</b>	<b>104</b>	<b>101</b>	<b>102</b>	<b>107</b>	<b>87</b>	<b>83</b>	<b>74</b>

※小数点以下を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります



アクアファーム（室戸市）

## 2 課題

◆【取水・分水機能】 利用企業において主要原材料の供給元としてサプライチェーンに組み込まれているため、重い供給責任。設備の更新タイミングも含めた今後のあり方の検討が必要。

◆【研究機能】 県及び室戸市が取水した深層水を活用した産業の持続的な発展のための研究開発の推進。

◆【被災対策】 近い将来における南海トラフ地震の発生を前提とした、特に職員の人的被害防止の観点からの適正立地

↓  
深層水関連産業のさらなる振興の観点から、関係者や有識者に参画いただき「あり方検討会」を開催、上記各課題に対する検討を行う。

## 3 県海洋深層水研究所のあり方検討会

◆目的 海洋深層水における県の取水・分水機能及び研究機能の今後のあり方について検討

◆検討会の実施期間 R5～R7

- ◆委員
- ①高知大学次世代地域創造センター 石塚悟史センター長
  - ②大阪公立大大塚耕司教授（海洋深層水利用学会長）
  - ③産業技術総合研究所四国センター 竹内準一所長補佐
  - ④海洋深層水企業クラブ 竹中利文会長
  - ⑤海洋研究開発機構高知コア研究所 廣瀬丈洋所長
  - ⑥室戸市産業振興課 山崎桂課長

◆事務局 工業振興課海洋深層水推進室